

対話のスキルを 教育に活かす！

コミュニケーションの重要性は、さまざまな分野で長年取り上げられてきました。しかし、われわれのコミュニケーション力が目に見えて向上しているかというと、素直にはうなずけません。パソコンなどの電子端末でのコミュニケーションの機会が増すなか、対話の力はむしろ落ちているようにすら思えます。本来幼少の頃から身につけるべき対話力を、きちんと学ぶことなく成長してきた結果ともいえるでしょう。

看護に対話は欠かせません。そして教育にも対話は欠かせません。当然看護教育において、教育者には対話力が求められます。一方的に講義する形式から学生の学ぶ力を引き出す形式に変わりつつある今、教員の対話力の向上は一層求められています。

今回の特集は、将来看護師となる学生の対話力を伸ばすその前に、教員自身が会話のスキルを身につけなくてはならないという現状からスタートします。教員が対話のスキルを理解し上手に使用すれば、学生の学びをより深くし、成果を導き出すことができるはずです。「理念」は当然必要ですが、「スキル」も同じくらい重要であることを認識したうえで、対話力向上に努めていただきたいと思います。